

「吾が太陽よりも大きいと申されましたね」「はい、そうです」「これらの幾つかの太陽を巡る遊星があり、其の上、生物が居るのは可能だと申されましたね」「はい、さうです」と天文學者は答へた。「よく譯りました。シカゴ市長に任命されるやうな人物も大して差異のある人ではないんだ！」とは、此の訪問者の別れの言葉であつた。政治に對する此の人の興味は減じなかつたが、最新の望遠鏡の接眼鏡を覗いた二三分間より、宇宙に於ける人間の位置と身分に關する重要な教訓を學んだのである。(A. S. P. L. 78., 佐登兒譯)

天界に現れたコペルニク関係記事

- | | |
|----------------|---|
| 天界 30號, 164頁 | E. S. キング: コペルニクの記念 (生誕450年記念の文) |
| 星 4號, 18頁 | |
| 天界 117號, 107頁 | アルフレド・ノイエス: コペルニク (詩) |
| 〃 125號, 40頁 | コペルニクの原著出版について
(“天體廻轉論” 原著の一頁の寫眞とその説明) |
| 〃 174號, 口 繪 | コペルニクの像 (ワルソゝ市に在る記念碑の寫眞) |
| 〃 221號, 340頁 | ドイツでコペルニク祭
(1939年, ケニグスベルクにて行はれた, 天界新知識) |
| 〃 230號, (249)頁 | コペルニクの言葉 (“天體廻轉論” 第一卷總論の譯) |
| 〃 234號, 418頁 | コペルニク時代の天文思想斷片
(“歳差” に関する意見など, 天界新知識) |
| 〃 236號, 57頁 | トルン記念碑の表題字 (雜報) |
| 〃 255號, 295頁 | コペルニク全集の刊行計畫など (雜報) |
| 〃 262號, (395)頁 | コペルニクは水星を見なかつたか?
(“天體廻轉論” 第5章の一部譯) |

會に關する點

(18-4-30縮切)

【入會】

- | 【入 會】 | | 糸岡 茂(尼崎) | | 谷山 宏文(京都) | | 上原 壯彦(大阪) | |
|-------------|-------------|--------------|--|--------------|--|-----------|--|
| 奥田 愷一(京都) | × 海老原勇夫(東京) | × 陶山正三郎(富山) | | 滿 洲 第 516 部隊 | | | |
| 松尾 孚(東京) | 深見 嘉之(新京) | × 石風 武人(日立) | | × 大原 豊和(市川) | | | |
| 本多 恒(東京) | 長坂雄二郎(兵庫) | 劉 保 康(北京) | | 長谷川 浩作(神戸) | | | |
| 畠 瀨 弘子(岡山) | × 青木 研甫(神戸) | 滿 洲 第 725 部隊 | | 川 瀨 利明(東京) | | | |
| 森本 梅雄(東京) | 大野 恒之(廣島) | 松尾 郁雄(長崎) | | 小川 清彦(東京) | | | |
| 癸生川 昭一(宇都宮) | 伏田 福(山口) | 竹中 忠太郎(池田) | | × 平野 耕作(神戸) | | | |
| 磯村 茂春(東京) | × 山内 太一(大阪) | 桑原 貫一(朝鮮) | | 飯古 博通(大阪) | | | |
| 高橋 初子(大阪) | 柏原 中學(兵庫) | 眞殿 邦平(岡山) | | 塚本 嘉男(布施) | | | |
| 楠田 治雄(大阪) | 吉浦 要(横須賀) | 松田 安弘(西宮) | | 北村 總一(山形) | | | |
| 武智 昭夫(愛媛) | 山中 清(神戸) | 石田 正巳(宇都) | | | | | |

【觀測部入部】

- 【観測部入部】 村田 旭(山口) 恒岡 美和(姫路) 藤吉 泰男(福岡)
和田 隼(大連)

注意：御移轉の節には直ちに（前住所をも並記して）御通知下さい。観測部の方は其旨附記して下さい。なほ、會費・部費等の入金通知は直接にお送りします。

(東亞天文協會事務局)